

事業所名 : sakura (児童発達支援)

作成年月日 : 令和7年3月1日

法人理念 : すべては利用児童の豊かな生活のために

支援方針 : ①多角的に評価して支援する②出来たよろこびを感じられるように。出来なくても向き合えた喜びを感じられるようにする。③社会参加を視野にいれる

営業時間 : 10:00～16:15

送迎実施の有無 : 有り(遠方の場合は保護者の協力を依頼している)

<地域支援・地域支援の内容>

農園活動で収穫した野菜を、近隣地域の方々に販売している。そこでお金のやり取りを行ったり、収穫物を陳列する、運搬するなど地域の方々の口に入るまでに、様々な家庭が存在するが、地域の方々のご理解もあり、子どもたちとの交流が芽生えている。

<職員の質の向上に対する取り組み>

職員によって習得した知識や技術には差があることは当然であり、オンライン研修を導入して法定研修だけでなく、実際の支援に役立つ研修を職員によりカスタマイズしている。

健康状態

<健康・生活>

健康状態の把握
排泄 更衣 食事 入浴動作の練習
福祉用具の提案

心身機能 身体構造

<運動・感覚>

農園活動での様々な身体運動と感覚入力
ヘルマンハーブを通した目と手の協調性や安定した姿勢の獲得
作業活動を通して道具を使って体の動かし方を知る体験を行う(例: 木工で鋸を使って木材を切る作業など)

活動

<認知・行動>

コバリテを導入し、視覚的なスケジュール管理を必要児童に提供する 農園作業で始まりと終わりの理解をわかりやすくする工夫(例: 雑草抜きエリアをロープで明示する等)

参加

<言語・コミュニケーション>

必要な児童にドットトーク等VOCAアプリを導入 遊びの中で環境設定を行い、児童同士の関わりや声掛けを行いやすくする工夫 ヘルマンハーブを通した自己表現やセッションで必要な相手の音を聴いて合わせる練習

環境因子

<体験・経験(行事等)>

農園活動、ヘルマンハーブのレッスンなど事業所内では木工、料理などを行う(活動を通して、道具などの扱い方や力加減などを学ぶ)

個人因子

<家族支援>

日常の様子を共有する。また、必要に応じて生活に必要な机の高さの調整、食具や筆記用具の提案を行っている。

<移行支援>

第一に就学後に課題となるだろう点を予測して、安心できる環境のもと、練習を行う。身辺動作や保護者のお手伝い等、頑張れば自分で出来るようになることを目標として支援する。
継続した介助が必要な場合も部分的に自分で出来るところを増やして、将来的な介助量の軽減を目指している。

<人間関係・社会性>

集団活動(農園活動、机上課題、サーキット遊びなど)を通してお友達とのやり取りやルールがあることを学べるようにサポートする。